

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな 経済フラッシュ

## (ECB <欧州中央銀行> 理事会)

2022/6/10

りそなホールディングス 市場企画部

### 〇概況

- ◆ ECB理事会では7月会合0.25%、9月会合の連続利上げを予告
- ◆ 量的緩和は7/1終了
- ◆ 市場は年内1.5%程度の利上げを織り込むが、イタリア国債の金利が急上昇するなど、不透明感は強い

✓ 6月9日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、中銀預金金利は▲0.50%、主要リファイナンス金利は0.00%、中銀貸出金利は0.25%で据え置いた。一方、7月の会合では0.25%の利上げを実施する意向であるとし、その後の9月会合でも更なる利上げを見込むとした。9月の利上げ幅については中期的なインフレ見通し次第とし、上振れるようであれば、利上げ幅の拡大が適切になるとした。9月会合以降については、緩やかながら、持続的な利上げが適切とした。

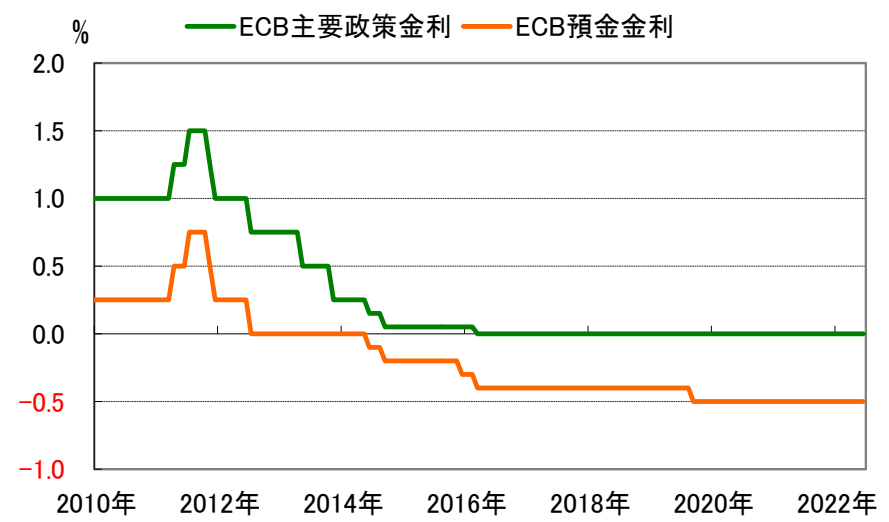
✓ 債券購入プログラム(APP)は7/1に終了することを決定。償還再投資については、利上げ開始後も長期間継続するとのスタンスを維持。前回と同じであるが、緩和強化の手段としての位置づけは修正。

✓ 利上げ観測の高まりとともに、財政事情が厳しいイタリアやスペインなどの国債金利がドイツと比較して大幅に上昇している。この市場分断化の状況について、ラガルド総裁は、既存の措置や必要に応じて新たな措置を導入するとしたが、具体的な内容についての言及はなかった。

✓ 四半期毎に公表する経済・物価見通しについては、右図表の通り。成長については2022年、2023年が下方修正。一方、物価については2022-2024にかけて上方修正された。来年にかけてもインフレが警戒される状況が継続することが示唆された。

✓ ラガルド総裁が事前に7月、9月の0.25%利上げについて示唆していたこともあり、今回の会合の結果にサプライズはない。金融市場は年末にかけて1.5%程度の利上げを織り込んでいるが、欧州景気が脆弱であることやイタリアの金利が急速に上昇するなど不透明感は強い。

### 【ECB政策金利と預金金利】



### 【ECBスタッフ見通し（6月時点）】

	2022年	2023年	2024年
実質GDP成長率	+2.8	+2.1	+2.1
3月時点の見通し	+3.7	+2.8	+1.6
HICP(消費者物価)	+6.8	+3.5	+2.1
3月時点の見通し	+5.1	+2.1	+1.9

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。